

企画展

# 植物たちの声を聴く -岩谷雪子の世界-

令和6年11月2日(土)～令和7年1月22日(水)

練馬区立牧野記念庭園

早春に可憐な花をつけるバイカオウレン。その開花はニュースで取り上げられるほど話題となりますが、その後ひっそりと実を結んでいる様子を知っている人は、どれくらいいるのでしょうか。造形作家・岩谷雪子氏は、普段見過ごされがちな植物の細部に造形的な魅力を見出し、植物を採集し、乾燥し、植物たちの声を聴くかのように向きあって作品を制作します。それは、植物から感じたものを損なわないように形づくる緻密で繊細な作業です。岩谷氏は、作品をつくる動機を次のように語っています。

「私達の周りに実は存在しているたくさんの生命(いのち)を感じるため」

当園や高知県立牧野植物園などで採集した牧野富太郎博士ゆかりの植物をアートとして再構成した作品を通して、本展がこれまで見過ごしていた植物たちの魅力に気づききっかけとなれば幸いです。



左：バイカオウレン  
右：ソナレノギク

## 基本情報・問い合わせ先

企画展「植物たちの声を聴く  
-岩谷雪子の世界-」

会期：令和6年11月2日(土)～令和7年1月22日(水)

休園：毎週火曜、年末年始(12月29日～1月3日)

時間：午前9時30分～午後4時30分

入場：無料

会場：練馬区立牧野記念庭園記念館

所在地：東京都練馬区東大泉6-34-4

TEL 03-6904-6403 FAX 03-6904-6404

E-mail [makinoteien@mist.ocn.ne.jp](mailto:makinoteien@mist.ocn.ne.jp)

URL <https://www.makinoteien.jp/>

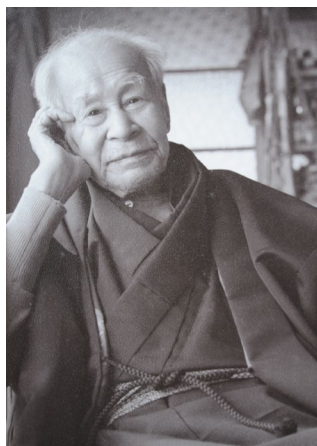
展覧会関連イベントについては、チラシ裏面をご覧ください。

## 植物学者・牧野富太郎博士について

日本の植物分類学の父とされる牧野富太郎は、1862(文久2)年4月24日に高知の佐川村(現佐川町)に生まれました。幼い頃より植物に親しみ、ほぼ独学で植物を研究、東京帝国大学理科大学(現東京大学理学部)の植物学教室で助手と講師を長年務めました。生涯に発見・命名した植物は1,500種類以上、収集した標本は約40万点、研究のために収集した書籍は約4万5千冊にのぼります。また、“牧野式植物図”と呼ばれる正確な図を描いたことでも知られています。

1940(昭和15)年には代表的著作『牧野日本植物図鑑』(北隆館)を刊行しました。

1926(大正15)年に渋谷から北豊島郡大泉村(現練馬区立牧野記念庭園の所在地)に移り住み、1957(昭和32)年に満94歳で没するまでの約30年をこの地で過ごしました。

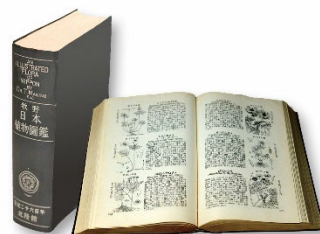


牧野富太郎、東大泉の自宅にて



牧野富太郎が原図を描いた『大日本植物志』に載るヤマザクラの図

牧野富太郎の代表的著作『牧野日本植物図鑑』北隆館、1940年



## 牧野記念庭園の紹介

牧野富太郎博士が1926(大正15)年から94歳で亡くなる1957(昭和32)年まで居住し、自らが採集してきた植物を植え、「我が植物園」として愛した住居跡を整備した庭園。牧野博士の没後、博士ゆかりの地を広く一般に開放し、博士の偉業を末永く後世に伝えようと、練馬区が1958(昭和33)年に開園しました。園内には300種類以上の草木類が生育しており、スエコザサ、サクラ‘仙台屋’、ヘラノキなど、学問的にも貴重な植物を多数見ることができます。



常設展示室では牧野富太郎博士が植物採集や研究のため愛用した道具などを展示し、研究活動や生活の様子を紹介しています。書屋展示室では書齋と書庫の一部を当時のまま保存。2023(令和5)年4月から博士が晩年過ごした様子に再現し公開しています。

### 練馬区立牧野記念庭園

開園時間：午前9時から午後5時まで  
休園日：毎週火曜日(ただし、火曜日が祝休日にあたる場合はその直後の祝休日でない日)、年末年始(12月29日～1月3日)  
入園料：無料

牧野記念庭園は東京都指定文化財(名勝および史跡)です。

